

地域との交流を図る 『地域に学ぶ体験学習』

宮崎県北郷町立北郷中学校

— 学 校 の 概 要 —

学校規模

学級数：7学級(内特殊学級1学級)

生徒数：202人

教職員数：18人

体験活動の観点からみた学校環境

人口5,400人余りの農業を中心とした町にあり、町内唯一の中学校である。学校周辺の環境は、自然に恵まれている。

飢肥杉の森林・広渡川の豊かな流れ・湧き出る温泉など自然を満喫する条件がそろった地域である。地域に残る伝統文化・文化財があり、本校の生徒も関わっている。

町内消防団活動に、少年消防隊として訓練や出初め式に特別参加している。

この活動は、生徒の自衛消防意識の啓発に役立っている。

町内唯一の中学校で、地域や町全体の関心も高く、また保護者の協力・支援も非常に熱心で行事の取組が充実している。

連絡先

〒889-2402

宮崎県南那珂郡北郷町大字郷之原

乙5079番地

電話：0987-55-2016

FAX：0987-55-2659

電子メール：

kitachi@miyazaki-nw.or.jp

— 体 験 活 動 の 概 要 —

活動のねらい

体験活動を通して、家族、家庭、地域を振り返り、感謝の心や忍耐・自制心を養う。

異年齢集団による生活を通して、仲間を助け、自分を見つめ、自己管理能力を養う。

地域との交流を深め、郷土愛を育てる。交流を通して、地域で子どもを育てる意識を高める。

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

各地域の公共施設(公民館等)を利用して宿泊体験(9月下旬：2泊3日)

地域の協力者や高齢者との交流の中で行う様々な体験活動(調理・四半的など)

親子で行うスポーツ・レクリエーション活動(ミニバレーボール・卓球・ビデオ鑑賞など)

講師や公民館長による講話

体制等の工夫

本校における地区生徒会を中心に各地区に分かれ、生徒地区長のもと活動内容を検討し、準備を進めている。その際、地区のPTA地区長と連絡を取り合い企画する。

活動の成果等

地域への関心が高まり、地域の大人の活動に理解を示した。

地域の伝統的な文化への理解と関心が深まった。

異年齢の集団での宿泊により、他者との交流が深まり、協力・助け合いが見られた。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

核家族化や少子化，高齢化が進み，社会情勢，生活様式，家族の人間関係が変化してきたとともに，家庭・地域の教育力の低下などが指摘されている。本事業では，このような状況を踏まえて，次の点をねらいとした。

ア 体験活動を通して，家族や地域を振り返り，感謝の心を養う。また，日常生活や学校生活を振り返り，忍耐や自制心を養う。

イ 異年齢集団による宿泊体験を通して，互いに協力し合うことにより，協調の精神・思いやりの心を育てる。また，自分をよく見つめ，自己管理能力を養う。

ウ 地域との交流を深め，郷土愛を育てる。また，地域の大人と子どもがふれあうことにより，地域で子どもを育てる意識の高揚を図る。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

地域共同体験活動事業 『地域に学ぶ体験学習』

イ 実施学年

全学年

ウ 活動内容

(ア) 地域の産業にふれる活動：刃物店の見学，日常の応急処置と呼吸蘇生法

(イ) 自然に関わる体験活動：魚釣り，天体観測

(ウ) もの作り体験活動：ちぎり絵，苗木づくり(あじさい)，紙粘土(リースづくり)，わら草履づくり，ひょうたん人形づくり，水中銃作製，田舎料理づくり

(エ) 地域の人と交流する活動：四半的(弓)，一人暮らし高齢者との食事会，ゲートボール，ミニバレー大会，調理実習(カニ巻き汁)

(オ) 先人から話を聞く活動：講話(地域について，あじさいづくり，北郷町の歴史等)

(カ) 対話やスピーチ活動：親子フリートーキング，1分間スピーチ，老人会長や公民館との対話

エ 教育課程上の位置付け

(ア) 本事業は，教育課程上の位置付けはしていないが，学校の行事(授業時数には含まない校外学習)としてとらえ，その活動内容から生徒の健全育成を図ることを目的としている。

(イ) 地域の大人に学ぶ，地域の伝承文化にふれ，実践する，などの貴重な体験を通して，企画・準備・運営に携わる能力の開発と，生徒地区長を中心としたリーダーの養成を図る。

オ 実施時期(日数や時間数)

(ア) 9月27日(木)から9月29日(土)までの2泊3日

(イ) 活動時間は，夕方5時から夜10時まで。朝6時から7時半まで。計6時間30分

カ 活動場所

(ア) 各地域の公共施設(公民館等)

(イ) 公共施設の付帯施設(体育館・グラウンド等)

キ 継続の状況等

平成13年度から県の補助事業として，北郷町地域共同体験活動推進会議が組織され，そ

れを受けて北郷中学校実行委員会・地区実行委員会が組織された。予算化もされ、各地域単位で実施することとされた。

生徒の取組としては、夏休み（8月）の登校日を利用して、各地区生徒会が活動した。生徒地区長を中心に活動内容の計画を立てるとともに、PTA地区長と連絡を取りながら準備を進めた。活動後は、保護者・生徒にアンケートを行い、反省を生かすこととした。

2 活動の実際

(1) 事前指導

ア 本事業の計画は、年度当初の北郷町地域共同体験活動推進会議幹事会に始まり、7月から推進協議会の開催、各公民館長と各地区PTAへの説明を行い、事業内容の充実を図った。

生徒への事前指導は、1学期の終わりに、8月から9月（実施時期）までの計画の流れと実施内容について概要説明を行った。その際、生徒地区長の確認と3年生を中心とした組織を確認させて、体験活動への意識啓発を図った。

<活動の流れ>

月	4月	6月	7月	8月	9月	10月
活動内容	保護者に説明	幹事会	推進協議会 公民館長会・地区PTA説明	生徒地区会と 地区PTAとの 連絡・検討	9/27・29 体験学習 実施	保護者・生徒 アンケート

イ 宿泊体験学習の意義や生徒の取組状況

生徒は、地区の高齢者や大人から、話だけではなく実際にもの作りや作品の仕組を学ぶなど生きた教材を使い、貴重な体験をすることになる。昔の遊びやその道具、道具の作り方や使い方など知らないことを大人から学ぶといった体験である。平成13年度の場合は、調理・紙粘土細工・ちぎり絵・あじさい苗づくり・わら草履づくり・ひょうたん人形づくりなどの活動を実施した。

(2) 活動の展開

ア 活動の場や施設

平成12年度から始まった宿泊体験活動（地域に学ぶ体験学習）の活動場所については、トイレや風呂の問題、異年齢男女混合で宿泊する点など課題が残っていたが、PTAと地域の方々の協力で、前年と同じ地区の公民館等を借りて実施した。生徒数の少ない地区や公民館の都合のつかない地区は合同で実施した。

宿泊場所に体育館・グラウンドが併設されている地区では、施設を利用してスポーツ・レクリエーションが計画され、地域・親子の親睦が深まった。具体的には、ゲートボール、ミニバレーボール、卓球、バドミントン、四半的などである。

イ 活動プログラム（概略）

事前指導	1日目(9月27日・木)	2日目(9月28日・金)	3日目(9月29日・土)
全校生徒へ ・日程確認 ・内容確認 ・学習指導 ・部活動確認 ・諸注意事項	8:00 登校 学校生活(普通授業) 部活動 16:30 まで 17:00 から地区活動 調理, 夕食 夜のプログラム 22:00 就寝	6:00 起床 清掃, 朝食 8:00 登校 学校生活(普通授業) 部活動 16:30 まで 17:00 から地区活動 調理, 夕食 夜のプログラム 22:00 就寝	6:00 起床 清掃, 朝食 8:00 登校 学校生活(普通授業) 午後 片付け

ウ 指導者・協力者

各地区で取り組む内容によって、地域の指導者をお願いすることにした。

具体的には

- (ア) 講話・・・「花づくり(あじさい)」,「地域について」,「地域の歴史」等の講話を地域の方や公民館長に依頼した。
- (イ) 四半的・・・四間半の距離, 小型の弓(弓道のミニ版)で行われる四半的の技術指導と実演を地域の方をお願いした。
- (ウ) 調理・・・「カニ巻汁」といわれる川蟹をすりつぶした味噌汁の作り方を地域の方に教えていただいた。
- (エ) もの作り・・・「ひょうたん人形」づくり,「わら草履」づくり, 刃物のできる過程などを地域の方に教えていただいた。

* 生徒の取組状況, 安全面, 活動内容などの観察のため, 各地域担当の教職員が巡回を行い, 保護者や地域の方々と交流を図った。

エ 生徒の活動の状況(一部を抜粋)

【地域の産業にふれる活動】

- ・ 蓑崎地区・・・刃物店の見学

この地区にある刃物店を夕食前に訪ねて, 刃物についての説明を受けるとともに, 数百度まで熱した鉄の「焼き入れ」,「焼き鈍し」を見せていただいた。その後, 店内にある各種の刃物(鉋・斧・包丁・小刀)を見学した。

【もの作り体験活動】

- ・ 立野地区・・・苗木づくり(あじさい)花作り名人の講話と苗木の挿し木

名人の花に関する話の後, 実際にあじさいの枝を切り落として, 鉢に挿し木した。生徒たちは, 興味をもって取り組んだ。各自の鉢にかわいいあじさいの挿し木が植えられ, 嬉しそうであった。あじさいは, 比較的挿し木で育ちやすいので, 少し大きくなったら畑か庭に植え替える。生徒は6月頃の梅雨時期を楽しみに育てている。

- ・ 宿野地区・・・わら草履作り

今日では, わら草履を日常生活の中で作ったり, 履いたりすることはなくなったが, 地区のお年寄りの方々は, その技術を覚えておられ, 生徒に伝承してくれた。普段は履くことのない草履を4時間ほどかけて作り上げた生徒は, お年寄りとの交流ができ, 良

い体験ができた」と答えていた。

- ・ 昼野・平佐地区…ひょうたん人形づくり

何日も前から、小粒のミニひょうたんを乾燥させ、この体験学習に備えた。各自がミニのマイひょうたんを持ち出し、色付けをしていく。公民館の隣に住んでおられる方が、ひょうたん栽培をしておられたので提供していただき実現した。生徒には好評であった。思い出深い飾りや置物になることであろう。

- ・ 中央・宿野・昼野地区…田舎料理づくり（カニ巻汁）、郷土料理づくり

地域の方やお父さんたちが川で仕掛けてきた川蟹（ヤマタロウガニ）を、ゆでてすり鉢ですりつぶし、それをこしてから、最後に鍋で煮て、味噌汁にする。好きな生徒は2杯、3杯とおかわりした。それくらいおいしいできばえであった。

【地域の人と交流する活動】

- ・ 蓑崎・新町・伊十川・常明寺地区…四半的（弓）競技

実際に技術指導を受けた後、四間半先の的をめがけて、射る。わりと近い距離なので迫力がある。生徒は上達が早く、おもしろいように的に当てていた。地域の方々も熱心に指導していただいた。一喜一憂の場面が見られた。

【先人から話を聞く活動】

- ・ 坂元地区…地域の方の講話「地域について」

（生徒の感想から）地域の方の話のなかで、「自分の夢だけは、あきらめないこと。」という言葉に感動しました。遊びと勉強にけじめをつけ、自分の夢に向かって絶対にあきらめないこと。この体験学習で学んだことを生かしたい。

（3）事後指導

「地域に学ぶ体験学習」実施後、生徒向けアンケート調査を行い、集計結果をまとめた。その結果は次のとおりである。

ア 生徒が実感したこと

ものづくりは時間がかかったり、作業が難しく大変だったけど、作り上げた。続けることが大切だと思った。食事の準備は、お母さんたちも手伝ってくれて、その苦労が分かった。草履づくりは、わらを束ねて、裂いて、たたくといった作業に4時間もかかった。けれども、お年寄りとの交流ができたので、良い体験であった。

イ 体験で学んだこと

共同生活の中で決められたルールを守ることの大切さが分かった。講話の中で、感動する話や初めて聞く北郷町の歴史の話があり、大変役に立った。

3 体験活動のための体制

（1）学校と関係機関との連携

北郷町地域共同体験活動推進会議は、北郷町教育委員会（教育長、生涯学習課）、北郷町内三校各PTA会長、三校各校長、自治公民館連絡協議会長、子ども会育成連絡協議会長等で組織され、以下幹事会及び実行委員会との間で、情報交換、計画立案、予算・決算、反省、次年度計画などが協議されている。

（2）学校の体制

生徒地区会を中心に、生徒地区長集会や地区集会を実施し、動機付け・内容検討などをした。PTA地区会との連携を図り、具体的な取組と食事内容などの準備を行った。学校においては、

取組への啓発や事前の諸注意などを行ったほか、生徒の取組状況、安全面、活動内容などの観察のため、各地区担当の教職員の巡回指導も実施した。

(3) その他

活動に必要な経費…県からの補助事業

4 成果と課題

体験学習実施後の生徒アンケート調査では、「計画通り活動できた」が7割、「地域の方々と交流できた」が6割、「今回の活動に満足できた」が5割であった。

5 今後の取組の方向

北郷町地域共同体験活動推進会議の事業として、平成14年度も本事業を実施する。更なる内容の充実を図り、成果を挙げることができるよう取り組んでいきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

本実践は県の補助事業として生まれ、地域に推進会議が組織され、それを受けて実行委員会が組織され、予算化もされている。また、生徒地区長中心に具体的な活動計画が立てられている。生徒の考えを取り入れながら、組織的・計画的で、入念な準備の下に実施されていることに着目したい。このような実践を進める過程で、当初の計画とずれたり、実施したことによって新たな課題が生じたりする場合がある。また、発想が広がって新しい活動に気付いたり、予想外に理解者や支援者が増えたりするものである。実施中にはそうしたずれや課題等に適切に対応するとともに、実施中の状況をよく観察しておく必要がある。また、実施後には実践の結果を評価をして今後役に立てるようにする必要がある。計画・実践・評価をしながら継続して行われるようにし、地域に定着していくようにすることが期待される。